

SUMITOMO

拠点所在地



左から安田欽班長、田中剛社長

JTRY水島でガス切の現場を指揮する第2製鋼原料部工事班の安田欽班長は、田中商会について「老舗のイメージが強いが、新たな挑戦を続ける組織で、働く人も多様性がある」と語る。ベテランや中堅に加えて、近年は若手メンバーも増えている。スタッフの年齢や性格は様々だが、それぞれが仕事に熱心であるという共通点がある。ガス切加工は母材の形状や材質がそれぞれ異なる。このため「適切な運用には一人ひとりの技術が大事になる」(安田班長)という。社員は技術力、会社の大きな強みだ。ヤードや解体現場でガス切

を行うスタッフは技能講習などを通して基礎知識を取得した上で、それぞれの現場においても日々研究を続けながら技術を磨いている。トラックドライバーも半数以上がガス切を行うことができるため、解体物件で切断したスクラップをそのまま持ち帰ることも可能だ。

こうした活躍する人材の確保や育成について田中社長は「社員がやりがいを感じられる職場環境の整備」を経営の重点項目の一つに掲げ、業務のシステム化や勤務体制の改善を積極的に図っている。時代の変化を一步先で捉えながら、新たな発想と実践によって田中商会の歴史は紡がれている。

1901年(明治34年)の創業以来120年あまりの歴史を持つ田中商会は、現在5部所7事業所のもと製鋼原料、非鉄金属、製紙原料を中心とした資源リサイクル事業を展開する岡山屈指の老舗リサイクルだ。主力の鉄スクラップは月間8000トを扱う。近年は産業廃棄物および一般廃棄物の収集運搬や産業廃棄物処理事業も手掛けており、廃棄物の扱いを強化している。2020年には雑品などの破砕・AI選別ラインを有する玉島工場を開設。プラスチック類などのマテリアルリサイクルの機能も拡大した。『リサイクルで地球を護る』をテーマに国益を重んじつつ社会貢献に努めることをとじており、国内資源リサイクル

の更なる推進に向けて挑戦を続ける企業だ。1977年にJFE商事ヤード内に開設した水島作業所(敷地面積9210㎡)では、溶断加工に注力しており、月間の扱ひ量はおよそ4000トと同社最大だ。ここを2024年11月に「JTRY水島」としてリニューアルしたタッグを組んで事業を行うJFE商事の「J」と田中商会

を「T」、Recycle Yardの「RY」を組み合わせたもので、新時代への「JTRY」を続けるという決意も込められている。JTRY水島は従来の加工に加えて、他部署より合流した解体班の強みを生かしながら大型対象物や特殊な構造物の解体などもターゲットとして、ガス切り加工の幅を増やし扱ひ量を強化している。解体や取引を行う対象地域は岡山エリアを中心とした九州・

「水島作業所」の機能を拡大
ガス切強化で新時代に挑戦

岡山県倉敷市の歴史は古く、およそ2万年前の旧石器時代に人が住んでいた遺跡が見つかっている。江戸時代には物資輸送の要衝として栄え、幕府が直轄する天領となった。戦後に沿岸部を埋め立てて形成した工業地帯には1961年に川崎製鉄(現・JFEスチール)水島製鉄所が開設され、鉄鋼業も盛んになった。倉敷で資源リサイクル事業を行う田中商会(本社〃倉敷市中島、田中剛社長)がリニューアルしたJTRY水島(倉敷市水島)を訪れた。

岡山県倉敷市の歴史は古く、およそ2万年前の旧石器時代に人が住んでいた遺跡が見つかっている。江戸時代には物資輸送の要衝として栄え、幕府が直轄する天領となった。戦後に沿岸部を埋め立てて形成した工業地帯には1961年に川崎製鉄(現・JFEスチール)水島製鉄所が開設され、鉄鋼業も盛んになった。倉敷で資源リサイクル事業を行う田中商会(本社〃倉敷市中島、田中剛社長)がリニューアルしたJTRY水島(倉敷市水島)を訪れた。

友建機
住建機
リサイクル紀行
Vol.41 田中商会・JTRY水島(岡山県)



JTRY水島・ガス切ヤード

沖縄を除く西日本エリアを網羅。将来倉敷に導入される電気炉への鉄源供給も視野に入れている。ガス切に注力する背景について田中社長は「人の技を用いた手触り感がある仕事こそ生き残るためのポイントの一つになる」という。人口減少によって内需縮小の加速が懸念される中、鉄リサイクル業では新規参入も増加しており競争が激化している。「油圧ショベルなどの大型機械を用いた従来の事業モデルだけでは厳しい時代」という田中社長の発言は、最新鋭の機械も備えた企業経営者の言葉として重みがある。新たな事業モデルを形成する上でもJTRY水島の役割は大きい。

プロ目線の対応に期待

2024年12月現在、田中商会は本社工場に計3機の住友建機製マシン(SH250-6MH、SH135X-7、SH330LC-7)を導入している。2025年1月には、JTRY水島にSH250-7LMの納車が決定。アタッチメントに鉄骨切断機を搭載して鉄スクラップの切断加工を行う予定だ。

田中社長は機械性能やサービス体制といった住友建機のトータルバランスを評価しつつ、機械のプロ目線に立ったアドバイスや提案を期待している。

万が一、機械が故障した際に原因を「使用上の問題」とだけ指摘されてもユーザー側に



SH250-6MH

打つ手は無い。適切な対処や安定した運用を続けるためには現場や作業内容を理解したプロ目線でのアドバイスが必要になる。

田中商会は資源リサイクル業をサービス業と捉え、顧客の困りごとを徹底的に研究しながら課題解決を図ってきた。現場の営業やスタッフもプロの視点と技術を持って日々の仕事に取り組んでいる。金属リサイクル向けの建設機械に強みを持つ住友建機にもプロフェッショナルの目線に立ったアドバイスや対応が求められている。



SH135X-7

担当：永田 智也

最適な機械やサービスを提供できるように、お客さまのもとへ伺い勉強を続けてまいります。岡山エリアのリサイクル建機はお任せください！



住友建機販売株式会社 岡山支店
〒701-0221 岡山県岡山市南区藤田564-215
Tel : 050-9002-0164 Fax : 086-296-9083

～住友建機がある風景～



SH330LC-7: 2023年5月に本社工場に導入した(本社工場)「SH330LC-7」は、同社における主力機のひとつとして鉄骨などの鉄スクラップの切断加工処理を行っている。